



1

よしつね しんらん かえつ 義経や親鸞も通った 加越国境の旧北陸道

あわら市細呂木など

昔の旅人の姿が思い浮かぶ旧街道、加越国境の坂道で疲れた旅人、千束一里塚の大きな木陰は小休止にちょうどいい。金津の宿はもうすぐである。



切通し（あわら市細呂木）



越前の国への道標「右 吉崎（蓮如道）、左 細呂木（一里）」
（加賀市橋町）^①

あわら市の旧北陸道沿いには、関所や一里塚など、各所に当時の街道の風景が残されています。

江戸時代初期には福井藩が細呂木に関所を設けるとともに、街道沿いに一里塚を設け、旅人の里程の目安と休憩の場としてきました。

加越国境から細呂木までの峠道は、当時急な山道で屈曲していたことから「のこぎり坂」と呼ばれ、途中、旧北陸道から枝分かれして吉崎御坊へ通じる切通し道は、手掘りの跡が苔むした岩肌に残り、往時を偲ばせます。



越前に続く旧北陸道（市史跡）（あわら市細呂木）^②



細呂木関所跡（市史跡）



千束一里塚（県史跡）（あわら市北金津）



坂ノ下宿場口跡（市史跡）（あわら市花乃杜）^③

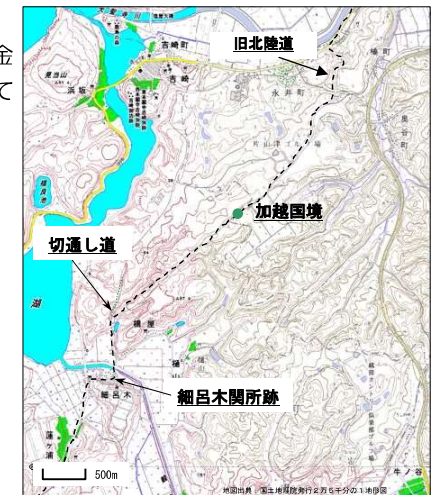
加越国境から千束一里塚を過ぎて、南に向かいしばらく行くと坂ノ下宿場口跡があります。ここは金津の宿場への到着を実感したところです。

北陸道の要所の金津は、宿場や商業の町として栄え、当時は本陣に宿泊する役人をねぎらうため飾り物を置いたことから、現在の金津祭りにおいて、各地区で作成、展示することが伝統として残っています。

金津宿には、当時、問屋、旅宿などがあり、金津宿全体に駅馬30頭を配置していたと言われています。



金津祭りの本陣飾り（漆器や家庭用品などで作成）^④



写真①～④はあわら市提供



2

20万株の花菖蒲 きたがたこ 北潟湖

あわら市北潟など

南北に細長い北潟湖、北は日本海につながり東は細呂木ののどかな水田風景、西は湖と共生する北潟の家並み、南は坂井北部丘陵の畑が広がる。表情豊かな湖には花菖蒲の紫がよく似合う。



北潟湖の朝日



伝統の寒フナ漁^①

福井県最北端の北潟湖は、湖に架かる真っ赤な「アイリスブリッジ」、20万株の花菖蒲が咲き乱れる湖畔の花菖蒲園、湖周辺の風力発電の風車など多種多様な風景が見られます。また、サイクリングやカヌーなどが楽しまれている風景も見ることができます。

北潟湖は、コイ、フナなどが生息し、淡水釣りのメッカとして有名です。また、12月から翌年2月にかけて、明治時代から続けられている寒フナ漁が行われ、冬の風物詩となっています。



300種 20万株の花菖蒲（花菖蒲園）^②



風力発電の風車と北潟湖とアイリスブリッジ^③



北潟湖でのカヌー交流大会^④



北潟湖畔イベント（観月の夕べ）で灯すロウソクの灯り^⑤



写真①は(財)福井県建設技術公社、写真②～⑤はあわら市提供



3

蓮如上人布教の聖地 吉崎御坊

あわら市吉崎

蓮如上人像が立つ吉崎の御山、鹿島の森を望む景勝地はかつて国内屈指の巡礼地だったという。後世建立された麓の本願寺東西両別院が昔日の風景を彷彿とさせる。



遊歩道から望む本願寺両別院

蓮如上人像が立つ吉崎御坊跡（御山）からは、北瀧湖や湖に浮かぶ「鹿島の森」や周辺の木々など、室町時代の蓮如や信仰厚い門徒たちも同じように眺めた風景がそこにはあります。



吉崎御坊跡（御山）から望む「鹿島の森」

蓮如は浄土真宗の北陸における拠点として、文明3年（1471年）吉崎の山上に吉崎御坊を建立し、布教に努めました。

浄土真宗は「嫁おどしの伝説」に代表されるように北陸の地に深く根を下ろし、現在も、京都東本願寺から吉崎御坊まで門徒が徒歩で蓮如の御影の入った輿を運ぶ「蓮如上人御影道中」などの信仰に根ざした催事の風景が見られます。



吉崎御坊跡（国史跡）に整備された公園^①



念力門（市文化財）



高村光雲作の「蓮如上人銅像」



蓮如上人記念館



吉崎の遠景^②



蓮如上人御影道中^③



写真①～③はあわら市提供



文人墨客に愛された名湯 あわら温泉

あわら市温泉、二面など

田園に囲まれたあわら温泉街は小宇宙のようだ。宿の庭園の美しさ、情緒ある温泉街の風情、芦原芸妓の三味線の音色、越前がにや甘エビ、関西の奥座敷といわれる由縁かも知れない。



田園の中のあわら温泉①

あわら温泉は周囲を坂井平野の水田に囲まれ、のどかな雰囲気の中に落ち着いた温泉街の風景が見られ、水上勉や田山花袋等の多くの文人墨客に愛されてきました。

同温泉は明治16年(1883年)、農地の灌漑工事を行っている最中に噴出したと伝えられています。

現在は30軒余りの宿が立ち並び、その温泉は温泉療法医がすすめる名湯百選にも選ばれています。



落ち着いた雰囲気のあるあわら温泉街



赤ちょうちんが灯る屋台村「湯けむり横丁」②



芦原芸妓③



あわら温泉湯かけ祭

芦原芸妓は、120年余りの伝統があり、毎日の厳しい稽古に耐えた芸は、美しく艶やかです。観光旅行者向けに、お座敷体験ツアーや芸妓変身体験も行われています。

また、あわら温泉の宝である「温泉」を御輿にかけるといふ温泉場ならではのまつりが毎年8月に行われます。にぎやかな湯かけ御輿や花車の巡行の傍らの温泉街の通りでは、和紙と竹で作られた行灯のローソクの光が幻想的な空間を創り出します。



温泉街に続く並木道(あわら市井江葎)



渡り鳥が飛来する大堤(通称「鴨池」)④
(坂井市三国町加戸)

芦原温泉街に続く並木道は田園風景と一体となっており、住民による環境美化の取り組みも行われています。

また、あわら温泉に程近い国道305号沿いには、福井平野を代表する農業用ため池「大堤(通称「鴨池」)」があり、車内からも眺めることができます。



写真①～③はあわら市、写真④は坂井市提供



5

多彩な果樹が迎える 坂井丘陵フルーツライン

坂井市三国町加戸、陣ヶ丘、あわら市井江麓、宮谷など

メロン、西瓜、梨、越のルビー、ブロッコリー、さつまいも、ラベンダー…。水平線までつながっているような広大な畑はなだらかな起伏に富み、絵に描くとヨーロッパの農村に似てしまうかも…。



香り漂うラベンダー畑（坂井市三国町加戸）

坂井北部丘陵地は、福井県最大（畑面積約 1,000ha）の園芸産地で、標高 40m前後の緩やかな砂地の台地です。

その丘陵地の中央には広域農道（フルーツライン）が横断し、その農道沿いには、梨畑、西瓜畑、ブロッコリー畑、ラベンダー畑などが並び、季節によって色鮮やかな顔を見せてくれます。



坂井北部丘陵地を走る広域農道（フルーツライン）（坂井市三国町陣ヶ岡）

また、ラベンダー摘み、ブルーベリー狩りなどの収穫体験も盛んで、6月に行うラベンダー摘みでは、やさしい香りにつつまれ、心と身体が癒されます。



アールスメロン



越のルビー^①



朝日に映るビニールハウス（あわら市井江麓）

ビニールハウス内では、アールスメロンなどさまざまな種類のメロンや、バイオテクノロジー（組織培養）技術を用いて開発された越のルビー（ミディトマト）も収穫されます。

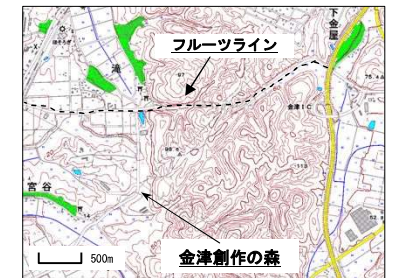


ブロッコリー畑（あわら市城新田）

広域農道（フルーツライン）の途中、里山が広がるのどかな丘陵地の一面に美術館やレストラン、ガラスや陶芸などの工房が点在する「金津創作の森」があります。豊かな自然と緑に囲まれた空間は、モノを創ることの楽しみ・喜びを感じさせてくれます。



森の中にある水辺の広場（金津創作の森）（あわら市宮谷）^②



写真①～②はあわら市提供



6

天下の奇勝 東尋坊

坂井市三国町安島、崎など

荒磯遊歩道を断崖に沿って歩くと「東尋坊」に、さらに2キロばかり歩くと神の島「雄島」に。道の途中には高見順や三好達治の文学碑。潮風に吹かれながら日本海の景勝地をのんびり歩いてみたい。



東尋坊（国天然記念物名勝）



東尋坊からの夕陽^①

東尋坊は、マグマが冷え固まってできた輝石安山岩の柱状節理が、海の荒波を受けてできた岸壁です。高さ20m以上の岩肌が日本海にそそり立ち、国の天然記念物および名勝の指定を受けています。

東尋坊の名は、怪力の持ち主で悪いことを重ね、仲間にこの崖から突き落とされた平泉寺（勝山市）の僧「東尋坊」の名前に由来して名付けられたそうです。



日本海から見る神の島「雄島」

東尋坊から見える雄島は、昔から「神の島」と崇められ、タブノキやヤブニッケイなどの常緑広葉樹の群生地です。この島に祭られている大湊神社の例祭の一つ「雄島祭り」は、毎年4月に行われ、1400年余りの歴史を誇ります。

また、海を見下ろしながら東尋坊の崖の上を通る約4kmの荒磯遊歩道は、三国にゆかりの三好達治、高見順らの文学碑があり、楽しく散策できる遊歩道です。

越前加賀海岸国定公園を形成する海岸線には、越前松島があり、宮城県みやぎけんの松島まつしまに似て、柱状節理のちゆうじょうせつり小島と松が美しいことから「越前松島」と呼ばれています。



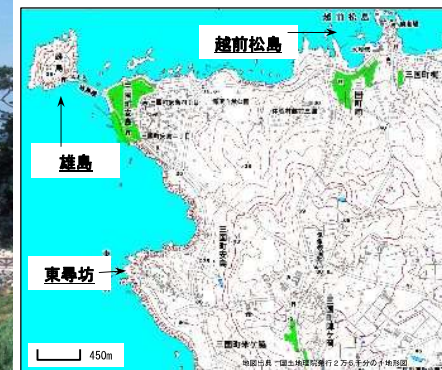
文学碑の小径「荒磯遊歩道」



伝統ある「雄島祭り」^②



岬の突端に浮かぶ「越前松島」





北前船の栄華漂う湊町 三国

坂井市三国町北本町など

三国祭の山車が練り歩く道を辿ると、三国節の「帯の幅ほどのまち」の歌詞を実感する。洋風・和風の古い建物や由緒ある神社仏閣が北前船の寄港地として栄えた湊町の往時を偲ばせる。



格子窓の連なる町並み（右 旧岸名家（国登録文化財）、左 三国湊町家館）

三国の町並みは、北前船の寄港地として栄えた江戸時代からのもので、古い湊町ならではの風情が漂っています。

その町並みは、九頭竜川に沿って立ち並ぶ町家、商家、土蔵、旧遊郭に見られます。

妻入りの前面に平入の屋根を伴った「かぐら建て」という三国湊独特の町家である旧岸名家、大正期の鉄筋コンクリート造（県内現存最古）の西洋建築である旧森田銀行本店などが当時の面影を残し、町並みの風情を引き立てます。

九頭竜川河口に広がる町並みにも湊町の風情が残されています。三国サンセットビーチの最寄り駅えちぜん鉄道三国港駅の周辺には、線路と橋が斜めに交差するため、アーチ状に積まれたレンガにねじりを加えた美しい眼鏡橋を眺めることができます。



立ち並ぶ町家、土蔵^①



旧森田銀行本店（国登録文化財）



アーチを描く眼鏡橋（国登録文化財）^②



初秋の風物詩「帯のまち流し」

毎年、5月には北陸を代表する祭である三国祭が行われ、6メートルを超える勇壮な山車が、帯の幅ほど狭い三国湊の町並みを練り歩きます。

秋には、三味線と笛に合わせて三国節を踊り流す、風情漂う三国湊「帯のまち流し」が行われます。



三国のランドマーク「みくに龍翔館」^③



北陸を代表する祭「三国祭」（県民俗文化財）^④

緑ヶ丘の高台にある「みくに龍翔館」からは、九頭竜川河口に広がる湊町が一望でき、振り返ると白山も遠望できます。

三国には瀧谷寺に代表される神社や寺院が数多くあり、散策をより楽しいものにしてくれます。



瀧谷寺の庭園（国名勝）^④





8

コシヒカリのふるさと 坂井平野

坂井市坂井町など

九頭竜川を渡り中角^{なかかく}駅から数えて8つ目のあわら湯の町駅まで、えちぜん鉄道の電車は坂井平野をほぼ真っ直ぐに走る。田植え前は大きな湖に、8月は一面黄金色になる広大な田園を眺めながら…。



豊かな実りをむかえた坂井平野



田植え後の坂井平野^①

坂井平野は、福井を代表する米どころであり、5月に植えられた稲は、秋が近づくときと一斉に色づき、一面黄金色に染まった光景は壮大で、夕日に照らされて、どこまでも広がる稲穂の海がさやさやと風に鳴ります。

また、坂井平野などで収穫される「コシヒカリ」は、「越の国に光輝く^{とかり}」という意味を込めて命名され、福井県がその発祥の地です。

収穫を終えると、稲わらを天日乾しする風景があちこちで目に付きます。

毎年5月から6月にかけては、水田と並んで、黄金色の麦畑が広がります。福井県は、減反の転用作物として普及した六条大麦の生産量日本一でもあります。この六条大麦は二条大麦に比べ粒が小さく、別名「小粒大麦」とも呼ばれます。

広大な坂井平野で獲れた米や野菜を直売する道の駅「いねす」には、新鮮な香りが漂い、大勢の客で賑わっています。収穫前の夏には、この地ならではの「かがしコンテスト」が行われ、ユニークなかがしがたくさん並び、農作業の疲れを癒してくれます。



稲わらの天日乾し



麦刈^②



田植えの途中の休憩



道の駅「いねす」(坂井市坂井町蔵垣内^{くらがいら})



かがしコンテスト^③



写真①～③は坂井市提供



田園の中のオアシス 春江ゆりの里

坂井市春江町石塚、木部西方寺、藤鷲塚、東太郎丸

毎年春から夏にかけて、春江のゆりの里公園には数万本のゆりの花が華麗に咲き誇る。近くには南北朝時代の名残の松並木。子どもの声がこだまする憩いの場の文化の森。見とれていると坂井平野を吹きわたる心地よい風を感じる。



色とりどりのゆりが咲き誇る「ゆりの里公園」(坂井市春江町石塚)①

ゆりの里公園のシンボル「ユリーム春江」は、ゆりの花をかぶせたデザインで建てられており、芝生広場のある農村公園を含め、地域の人々に集いの場として利用されています。



ゆりの里公園のシンボル「ユリーム春江」②

6月にはゆりフェスタが開催され、3,800㎡の展示圃場に20種類、3万本のゆりとゆり科の植物が一面を埋め尽くし、6月下旬には色とりどりのゆりが微笑みかけます。



紀倍神社の参道と松並木 (坂井市春江町木部西方寺)



次代の子どもたちが集う「エンゼルランドふくい」(坂井市春江町東太郎丸)

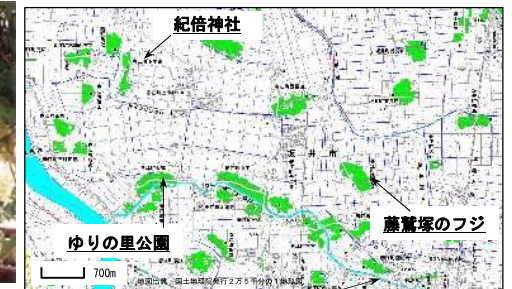
また、近くにある紀倍神社の参道は、南北朝の頃に、騎馬軍団の充実を図るため、基礎訓練の流鏑馬、笠懸などの訓練がされた馬場だったと言われていいます。その原形が、松並木とともに残されています。

また、藤鷲塚のフジは、その樹幹の大部分が地上に横たわり、まるで龍が伏しているような奇妙な形をしています。

坂井市春江町の中心部に位置する坂井市文化の森には、子どもたちが科学や文化に触れることができる「エンゼルランドふくい」、イベントホール、春江図書館、広大な芝生広場や噴水のある「ハートピア春江」があり、市民の憩いの場となっています。



藤鷲塚のフジ (県天然記念物)



エンゼルランドふくい

写真①～②は坂井市提供



日本最古の天守閣 丸岡城

坂井市丸岡町 霞町

日本最古の丸岡城の天守閣が建てられたのは今から 430 年以上も前。今、信長や秀吉と同じ時代を生きた先人と同じ城を眺めている。



日本最古の天守閣 丸岡城 (国重文)

坂井市丸岡町にある丸岡城は、柴田勝豊（勝家の甥）が天正 4 年（1576 年）に北庄城の支城として築城したお城で、2 重 3 層の天守閣は望楼式天守で、現存する日本最古の天守閣です。



丸岡城 外堀跡

また、城郭一帯には、約 400 本のソメイヨシノが植えられ、毎年 4 月の開花時期にその別名 霞ヶ城 の名にふさわしく、花の霞に浮立つ古城の眺めは古城に美しさを添えます。また、城を囲んでいた内堀は埋め立てられ今は道路となっていますが、外堀の多くは水路として利用改修され、昔と同じところを静かに流れています。



丸岡城から眺める冬の城下町



丸岡古城まつり 5 万石パレード出陣^①



冬の丸岡城のライトアップ



石碑
「一筆啓上
火の用心
お仙泣かす
な馬肥せ」

丸岡城にある最も短い手紙文を刻んだ碑文は、徳川家康の功臣、本多作左衛門重次が陣中から妻に宛てた手紙として有名です。

碑文に因んで平成 5 年から始めた一筆啓上賞は、日本で一番短い手紙文の再現、手紙文化の復権を目指し実施しています。

また、城に隣接する霞ヶ城公園には、一筆啓上の「日本一短い手紙」とかまぼこ板（日本一小さなキャンバス）の絵のコラボ作品が展示され、観光客の目を引きまします。

毎年 10 月には丸岡古城まつりが開かれ、武者行列や子供大名行列など時代絵巻さながらの勇壮な行列が町内を練り歩きます。



一筆啓上とかまぼこ板の絵のコラボ作品^②



写真①～②は坂井市提供